

平成27年度 第2回石岡市ふるさと再生会議 会議録

1 会議の名称

平成27年度 第2回石岡市ふるさと再生会議

2 開催日時

平成27年7月24日（金）14時00分から16時15分まで

3 開催場所

八郷総合支所1階101会議室

4 出席者

17人

5 会議録（要旨）

（1）開会

（2）会長挨拶

（3）議事

1) 石岡市の現状と課題～石岡市人口ビジョン・総合戦略策に向けて～

【会長】

事務局より資料1の説明をお願いします。

【事務局】

資料説明（P16 人口動向まで）

【会長】

ここまででご意見、ご質問あればお願いします。

【委員】

前回資料について、確認したい。女性の働く環境について。20-39歳の減少も資料にあった。女性の働く環境と出生率の関係はあるのか。

【事務局】

女性の転出理由に働く環境や結婚を機にしていることが確認できている。女性の働く環境について、結婚後に出生率。詳細は現在集計中の転入転出アンケート結果で調査したい。

【会長】

欧米では女性の雇用率があがると出生率も向上している。仕事と保育の



両立により安心して子どもが産める環境。

【委員】

出生率は事後指標、結婚の年齢などの先行指標があれば教えてもらいたい。

【会長】

海外事例を探す必要がある。結婚の年齢や保育所の開設率など、深掘したものはあるのか。

【副会長】

回帰分析の話だと思う。結婚年齢がどのような要因で上がるかということ複合的に確認する。今後、回帰分析を含めて研究していくような内容。分析可能ではあると思うが、データ上やアンケート結果から分析してはどうか。

【会長】

そのような分析はデータを集める必要があるので時間を要するが、今回の検討では石岡市を対象とした議論を行うので、アンケートの結果などを使って整理していきたい。

【副会長】

その結果で、子育てに対して不安が生じている要因が分かれば具体的な政策に展開できる。

【委員】

出生率の低さは経済的な要因が多いと思うが、結婚前は出会いの場が少ないという話をよく聞く。

【会長】

経済的な要因として大きいものは何か。

【委員】

子どもに対するお金が増えるとゆとりのある生活がしにくくなってきている。二人目、三人目を生むには働くことが必要。後押ししてくれるような制度があるといい。

【会長】

子どもが増えると医療費が増えるなどあるが、どうか。

【委員】

うちの子は小さいので、一番大きいのは、ミルクやおむつ、洋服など生活に必要なもの。

【委員】

働く場所がない。子育て支援が他市と比べても充実していない。小美玉市、かすみがうら市では人口が増えている。そのような分析はあるか。働く場所について、土浦市などに行っていることが流出の要因。福祉、教育、

石岡が何にウエイトをおくのか。他市との違いを出す。しかし、子育て支援を充実すれば福祉がおろそかになる可能性もある。

【会長】

本日は、分析に対する意見、政策ではない。1点目についてはどうか。

【事務局】

小美玉市、かすみがうら市の社会減は石岡市と比べて少ない傾向があった。出生率等の要因など3市比較を行いたい。また、転入転出は宅地開発の影響があり年度による差が大きい。このあたりも抑えたいと考えている。

【委員】

石岡市の人口減少をどのように食い止めるか。増やす以前に減少の歯止めが必要だろう。どのように対策を立てなければいけないかの政策を聞きたい。

【事務局】

子育て環境の改善や企業誘致、農林業の振興などのプロジェクトを進めている。結婚を機に転居する人なども見られているため、新婚世帯子育て世帯の家賃助成や新築時の助成なども行っている。

【委員】

委員から若者の出会いの場が少ないという話もあった。昨年度のお祭りで実施された婚活の成果はどうか。

【会長】

昨年度の実績があれば教えてほしい。

【事務局】

1組がカップルになり結婚したという報告を受けている。

【委員】

石岡市で生活しているかどうか、カップルができただけでは意味がない。追跡して把握できるようにしてほしい。

【会長】

今年度よりできる限り対応をお願いしたい。

【事務局】

資料説明 (P26 産業動向まで)

【委員】

中心市街地への出店促進について、私は詳しく知らない。手続きなどは市から案内が出されているか。

【事務局】

周知は広報誌やホームページで実施している。市より助成金を出している。もっと、知って頂くように努力したい。

【会長】

広報誌やホームページだけではなかなか市民には伝わらない。公民館などで案内するなど広報に工夫が必要だろう。

【委員】

石岡市の観光入込客数はいしおかのお祭りがほとんど。石岡市の魅力をもっと作っていかなければならない。市外へ情報発信していくことが何より重要。今の情報発信はどうなっているか。

【事務局】

戦略的情報発信の指針をつくり、発信の仕方を工夫している。最近では「るるぶ石岡」の作成など、外への情報発信に力を入れている。住民に対しても同様に広報している。また、今後地方創生の交付金を使い、東京圏へアピールしていきたいと考えている。

【会長】

石岡市の観光は9月のいしおかのお祭りが稼ぎ頭。5月と11月も多いがこれらの要因は分かるか。

【事務局】

5月はフラワーパークのバラの季節やイベント、11月は果樹園の収穫時期である。

【会長】

観光面では、いしおかのお祭りに続く第2の柱が必要。

【委員】

観光入込客の多い大洗や笠間との都市間交流が有効だろう。現在の交流状況はどうなっているか。

【事務局】

個別には実施していない。今後近隣都市との連携を図り、地域としての回遊性向上、魅力アップを図っていきたい。

【会長】

地域全体としての観光拠点を増やして、交流人口を増やしていくことが有効。

【会長】

農業が減っている要因は何か、後継者不足か。収穫額を増やすためには面積を増やすことが必要。後継者不足であれば対策が異なる。

【委員】

農協では現在、耕作放棄地などの支援を行っている。将来的には新規就農者に渡すことも狙っている。石岡は梨の産地だが梨農家は減っている。原因は高齢化、手間がかかる割に収益が上がらないこと。にら、れんこんなどは収益率が高いが、そこは後継者も育っている。やはり、農家を育て

るには収益率が高いものを扱うことも必要。

【委員】

農家は高齢者が多く、今後5年で25%くらいの方が農業をやめるのではないだろうか。耕作放棄地が増えれば、ふるさとの美しい景観も崩壊してしまう。農協では、新規就農者を育成する取り組みを17年前から行っている。2年の研修が必要で、石岡市内からの応募はないが、市外から夫婦で来てくれる人がほとんど。1年あたり1組を受け入れており、現在17組。離農は1組のみでその他はすべて石岡市内に定着した。ほとんどが有機農業をやっている。有機の郷で調べてもらえれば。

【会長】

農業のミスマッチがあるようだ。戦略のすり合わせが必要。分析では果樹を進めたいかもしれないが、就農者は儲かる農業や有機農業をやりたい。今後の果樹の可能性はどうか。

【委員】

住宅地が増えてきており、消毒などの環境問題が出てきている。梨は20年前から単価が変わっていない。重いものは高齢者には厳しい。これらが減ってきている要因だろう。

【会長】

宅地化の進展、単価が安い、重労働でやはり梨は厳しいということか。

【委員】

梨農家が減ってきているのは事実。新規就農したい人がいない。梨は放棄した場合は近隣の木が病気にならないようすぐに木を切ってしまう。切られる前に探す必要があるが、受け手が見つからない状況。

【事務局】

資料説明 (P39 生活構造・市民アンケートまで)

【委員】

アンケートは回収率が悪い印象を持っている。回収率をアップしないと市民の意見がしっかり反映できないのではないか。アンケートを発送した人には電話などで要請することも一つの手。そのような取り組みはしているか。

【事務局】

毎年している市民満足度調査は約30%程度の回収率となっている。アンケートの実施を事前に周知をしていくことが重要と考え、市報やホームページでの事前案内を行っている。個別の連絡は実施していない。回収率をあげるためにできることは、今回のアンケートに関わらず検討していきたいと思う。

【委員】

今回のアンケート調査は石岡市の将来にとって重要。検討していただきたい。

【委員】

石岡市の保育園、幼稚園の状況が分かれば教えてほしい。また、石岡市民の意見以外にも、市外の人意見が聞けないか。転入者からの意見も参考となるだろう。

【事務局】

保育園、幼稚園の状況について、石岡市内の待機児童は0となっている。配置状況などは今後整理したい。市外からの視点については、今後地方創生交付金を使って東京圏との交流事業を進めていく中で調査していきたいと考えている。

【会長】

これまでのいしおかのお祭りで来訪者アンケートを実施していないか。

【事務局】

これまでのアンケート調査実績、今後の意向については、観光課に確認する。

【委員】

私の周りの人は市外からの移住者が多く、子育てされている世代。その視点で意見を聞いてきたのでここで共有したい。多くは石岡市の独自性がないということ。「保育料が高くなり、医療費助成制度も限定されており、子育てに関する支出が一気に上がった。ファミリーサポートも受けられなくなった。」、「笠間市の図書館は市外も受け入れてくれる。貸出の制限がない。図書館に行く時は笠間に行く。」「子育て世代の交流の場所が少ない。」「公立の幼稚園が1つしかない。八郷は私立しかない。制服代など余計なお金がかかる。」「八郷にはいい高校がない。市外に通わせるのは送迎などが大変。このまま八郷に住んでいていいのかと考えてしまう。」、「小美玉市は音楽などの芸術が充実している。」「ボランティア活動に対する支援が少ない。」「仕事の時給は石岡が低い。つくばや土浦の方が高くていい。」「学校教育も目玉がない。石岡はランドセルがただでもらえるくらい。」など。例えば学校教育などは、児童数人が少ないことを活かして少人数学習をPRしていくなど、他都市との差別化をしていくことが考えられる。

【会長】

委員はどこからの移住か。

【委員】

県南市町村からの石岡市への移住。

【会長】

いろいろなご意見を出して頂いたが、一言でいえば、住みづらいということ。市民の本音を聞き出すなら、覆面の座談会でもしたらよいだろう。

【委員】

外部の意見という話があったが、銀行のメンバーはほぼ全員石岡以外から通勤している。行員へのアンケートであれば協力できる。また、データでの分析について、データは切り口によっては見え方が変わる。実態を把握したうえで整理した方がよい。

【委員】

鹿島や神栖の出生率が高いというのは、子育てに手厚いものがあるから行くということだろう。税収が上がるから手厚くできるというものもある。石岡市で全てを同じようにはできないと思うが、部分的にも取り入れることは有効。例えば、つくば市の学校では1年生からタブレットを配布した教育をやることで公立の入学生徒数が増えたという事例もある。全部はできなくても参考にしていけばいい。また、石岡市の新入生に対するランドセルの配布は良いことで、保護者に大変喜ばれている。小さなことでも1つつやっっていけばいい。また、石岡市は土地がちょっと高い。小美玉やかすみがうらは安いので若い世代が住宅を建てる場合はそちらを狙うという話をハウスメーカーから聞いたことがある。

【委員】

人口減少対策については過去に石岡市でも様々施策を実施しているのではないかと。その施策一覧と評価を提示してもらいたい。

【会長】

全国的にこれまでの施策に対する効果分析はきちんとやっていないのがほとんど。施策一覧表は出せると思うが、効果は出せないだろう。今回の地方創生ではKPIという評価指標を出すことが1つのポイント。5年間で検証する。

【事務局】

施策一覧のとりまとめは行いたい。石岡市の政策評価は全市的に実施している。単独の取組にそのまま直結する評価ではない部分もあるが、可能な限り提示したい。

【事務局】

資料説明 (P43 石岡市の課題と将来人口動向まで)

【会長】

目標6万人とは、国の予測より上げていこうということ。

【副会長】

本当にできるのか。

【委員】

八郷と合併した際、8万3千人あった人口を食い止めようと施策を講じているが実際はここまで減少してしまった。今後、石岡市の人口を増やしていくには、税収を増やしていくしかない。皆さんからの提案を貰いながら進めていくしかない。

【委員】

石岡市の保育料は高い。税収がないと高い保育料を下げることはできない。保育料が0であればもう1人産みたいと言う人は多い。市民税によって保育料が決まる。補てん分は市町村の持ち出し。その点を認識して欲しい。

【会長】

市民は制度より、保育料だけでみるだろう。制度のことは分からない。

【会長】

今回の目標は、非常に野心的な目標だと思う。

【委員】

定住の決定権は個人。どこで生まれてどこで住むか。一人の人生に置き換えて施策をまとめていくのがよいのでは。ライフプランに合わせて市ができることを整理していくことが分かりやすい。私は多く転勤してきているが、先日見た筑波山に沈む夕日は人生で一番キレイだと感じた。魅力はどこにでもある。

【委員】

石岡市外から参加している。自分の住んでいる地域の良さは自分では気づきにくい。言葉は悪いが、今後は限られたパイを奪い合うということ。そのためには住民の方を集めたワークショップが欠かせない。自分の住んでいる地域の魅力を住民に知ってもらう機会を作ることが必要。地元で地域資源を再発見してもらおう。楽観的に考えればそのようなことができれば6万人も達成するのではないか。

【会長】

ハードルは高いがこのまま進めていくことで良いか。

【委員】

目標に向けてどのような施策を講じるかが重要となってくる。

【委員】

石岡市は周りの市町村の影響を受けやすく、先進的な施策がない。石岡市の独自性を出して、周りが実施していない施策を思いきって実施するべきではないか。高いハードルを越えるにはそのようなPRが必要。

【委員】

6万人という数値だけでは納得できない。数値ありきの目標ではなく、将来のあり方をセットで出して頂ければ納得できる

【会長】

目標を達成するための施策が必要、ビジョンの裏付けが必要ということでこのまま進めていく。

(4) その他

【委員】

できるだけ資料は事前にお願したい。

【事務局】

今回は8月19日を予定している。

(5) 閉会

以上